

鍛冶屋創生塾の紹介

伝統産業の継承と地場産業の発展に期待がかかります

土佐山田町上改田（土佐刃物流通センター敷地内）に、令和元年11月に開塾した「鍛冶屋創生塾」取材しました。

現在、1期生3人・2期生3人が入塾して、土佐打刃物の技術を学んでいます。

今年10月に卒塾する1期生に、2年間の学びと入塾生活・今後について聞きました。塾生の爽やかな笑顔で楽しくインタビューができました。



塾1期生の作品

入塾したきっかけは？

（山本）元々モノづくりには興味があり、友人の鍛冶屋さんに刺激を受けた。

（藤田）大学生の時、東北で鍛冶屋の技術を見る機会があり興味をもった。

（岡田）高校時代に鍛造の授業を受けたのがきっかけ。タイミング良く塾生募集を知る。

入塾しての感想は？

（山）うまくできず悔しかった。講師の方々が親身に教えてくれた。

（藤）包丁、鎌、鉈と色々な講師の方に技術を教えてもらえた。

（岡）試行錯誤したが、講師の方も親切に指導してくれるので恵まれた環境だと思う。

鍛造してみたの感想は？

（山）当初の作品より良いものを作れるようになった。

（藤）うまくいかないところを汲み取るのが難しい。

（岡）うまくいかない理由は講師の方々が教えてくれる。インターンの経験も大きい。

将来の夢は？

（山）技術を上げていき、ゆくゆくは鎌鍛冶になりたい。

（藤）包丁メインで考えているが、いずれは色々な物も作りたい。

（岡）厚物鍛冶（鉈・ナイフ）をメインで考えているが、いずれは色々な物も作りたい。

「土佐打刃物」に対する思いは？

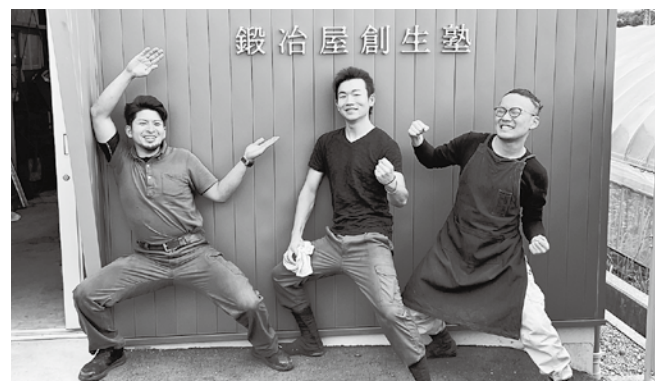
（山）興味があっても知らない人もいる。地元の県ということもあり盛り上げていきたい。

（藤）伝統産業をつなぐ一人として初心を忘れず安定したものを作っていきたい。

（岡）今のうちにたくさんのことを吸収し「土佐打刃物」を継承していきたい。



研修風景



左から 山本さん、藤田さん、岡田さん